



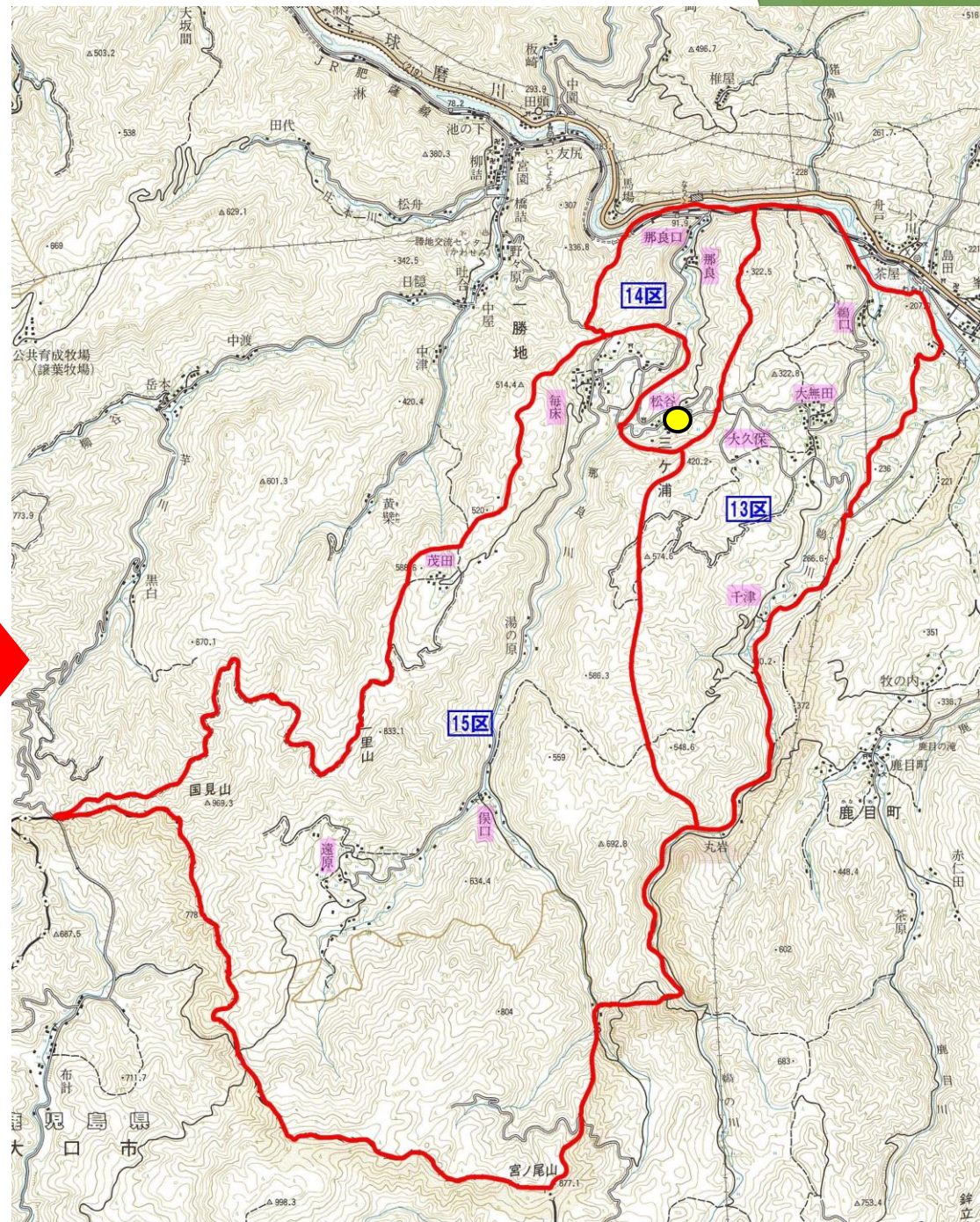
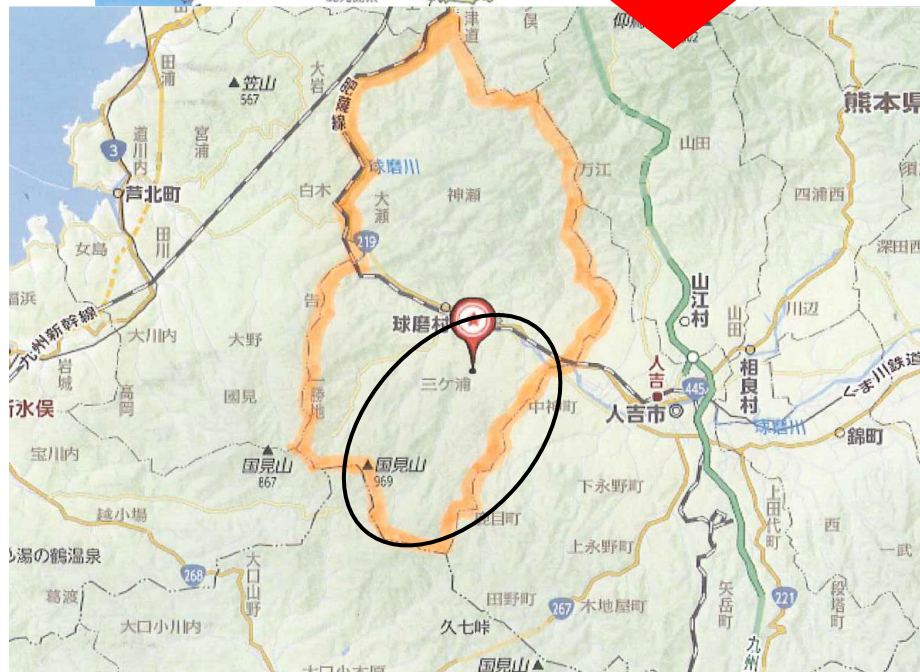
令和2年 12月19日

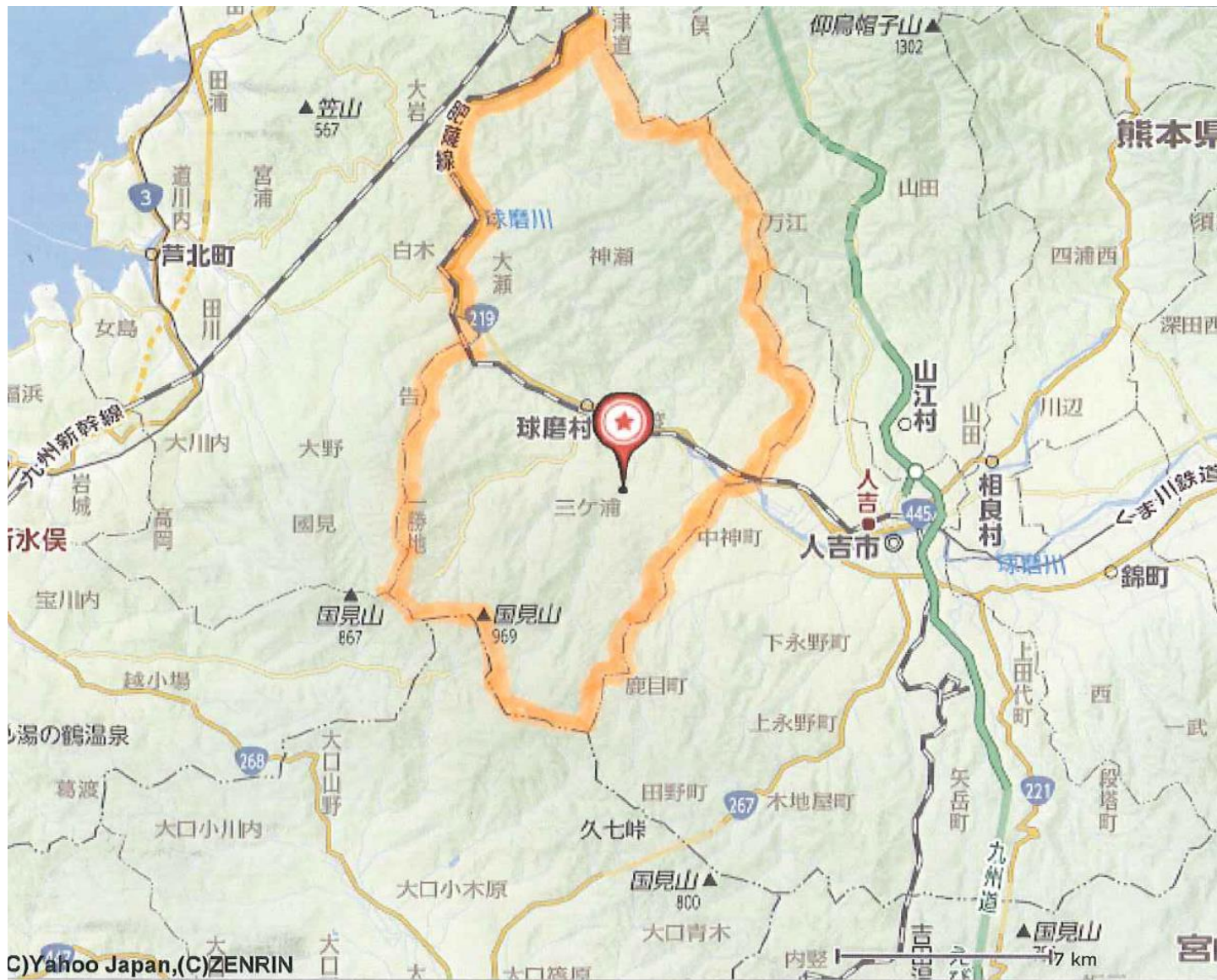
E S D推進ネットワーク全国フォーラム2020

農林業体験交流宿泊施設 田舎の体験交流館「さんがうら」

令和2年7月豪雨について

位置：球磨村・三ヶ浦地域





アップコード: **MAPCODE** 195 784 569*11 緯度経度:北緯32度13分30.83秒 東経130度39分51.38秒

球磨村に隣接する市町村

鹿児島県伊佐市

熊本県 八代市


水俣市

人吉市

芦北郡 芦北町

球磨郡 山江村

熊本県球磨郡球磨村三ヶ浦(大字)松谷

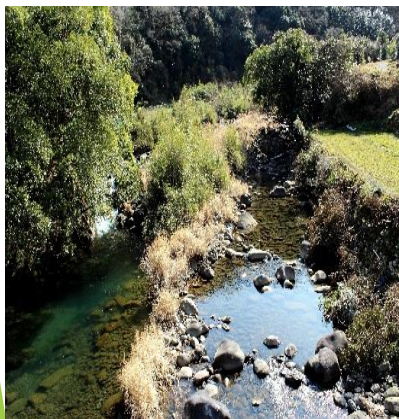
 = 田舎の体験交流館さんがうら

熊本県球磨郡球磨村（くまむら）

◆位置

熊本県の南部に位置し、昭和29年に神瀬村（こうのせ）一勝地村（いっしょうち）、渡村（わたり）、の3か村が合併し球磨村となる。東西13.5 km、南北25 km、面積207.7 km²、88%が山林で、村全体が山岳地帯。村の中央を球磨川が横切っており、大小無数の谷川が注いでいる。その谷川沿いに78の集落と多くの棚田が点在している。主な産業は林業と農業。60以上の集落が、主な居住者の名字と一致する。

三ヶ浦地区 1 1 集落 中山間地の集落で隣接集落は無い



日本の棚田百選「松谷棚田」 最上段に「さんがうら」





▶ 熊本県球磨郡球磨村大字三ヶ浦松谷

田舎の体験交流館「さんがうら」

田舎の体験交流館「さんがうら」

- ◆開 設 平成23年4月1日
- ◆運営開始 平成23年7月3日
- ◆開設目的 グリーンツーリズムによる都市農村交流拠点
- ◆所在地 球磨村大字三ヶ浦松谷
- ◆建 物 旧一勝地第二小学校（昭和57年落成）
- ◆運営母体 田舎の体験交流館さんがうら運営委員会
- ◆許可業務 旅館業・飲食店業

惣菜製造業・菓子製造業

平成30年 3月取得

移動販売業（弁当・惣菜・生菓子）

平成30年12月取得

田舎の体験交流館さんがうら運営委員会

◆運営委員会（30名）⇒ 役員会（10名）

地域代表（区長・班長）（11名）

女性代表（3名）

棚田保存会代表（9名）

地域団体代表（2名）＊消防団5分団・公民館5分館

有識者（1名）

行政代表（3名）＊総務課長・教育課長・企画振興課長

施設代表（1名）＊施設長

◆世帯数 1,436戸（7月豪雨前：令和2年6月）

1,379戸（令和2年11月）

◆人口 3,518人（7月豪雨前：令和2年6月）

（男性：1,668人 女性：1,850人）

3,393人（令和2年11月）

（男性：1,624人 女性：1,769人）

◆高齢化率 45,2%（豪雨前と後で数値変動なし）

内、530名が球磨村内の仮設住宅へ入居

221名が錦町の仮設住宅へ入居

みなし仮設が約70戸、親戚等への非難が約70戸

球磨村の人口の約3割が、仮設または避難中

来館者の主な利用目的

- ◆ さんがうら開催催事への参加
- ◆ 農林業体験・食の加工体験・野外活動体験
- ◆ 保育園・学校・子ども会等の集団宿泊
- ◆ 部活合宿・学習会・ゼミ合宿
- ◆ サークル合宿
- ◆ 企業団体の会議・研修・総会
- ◆ 観光宿泊・帰省宿泊
- ◆ 同級会・会食・食事会
- ◆ 視察研修
- ◆ 役場各部署関連公務
- ◆ 地区行事
- ◆ 消防団訓練・防災訓練・青年団活動・老人会活動

さんがうらの主な活動内容

- ①宿泊業
 - ②飲食店業
 - ③農林業体験の企画・開催
 - ④食の加工体験の企画・開催
 - ⑤自然体験活動の提供・企画・開催
 - ⑥様々な活動の場として
 - ⑦棚田再生と棚田資源の観光化
 - ⑧物産品や特産品の開発・販売
 - ⑨地域資源の発掘・記録収集・情報発信
 - ⑩総菜製造業・菓子製造業・移動販売業
 - ⑪集落支援・生活支援・コミュニティ支援
- ①～⑥ 来館者のニーズに合わせた都市農村交流等の取り組み
⑦～⑪ 地域の再生や支援等、活性化への取り組み

地域住民とのかかわり

～体験や地域活動を通して～

- ◆体験講師として依頼
- ◆体験やイベントの準備・運営を一緒に行う
- ◆棚田の整備・用水路の清掃などの公役
- ◆地域行事への参加・訪問
- ◆地域の名人さんたちへ師事
(農業・林業・狩猟・地域の歴史や文化…)

住民の方は皆、先生。

地域活動を通して様々な交流を続けている。

地域住民とのかかわり

～さんがうらと住民活動の場～

- ◆地域住民の活動の場として（スポーツ等）
- ◆役場各部署の公務の場として
（健康診断・税申告・選挙投票・行政説明会等）
- ◆地域行事の場として（敬老会等）
- ◆地域団体の活動の場として（体育祭等）
- ◆消防団訓練・防災訓練の場として
- ◆忘年会・新年会、同窓会等、会食の場として

学校の時から行われてきた行事がそのまま継続されている。

※会食の場は「さんがうら」になって後。

地域住民の活動とかかわり（一例）



ビーチボールバレー



三ヶ浦地区球技祭（五分館）



ソフトボール大会



青年団活動



敬老会



ゲートボール大会



健康診断



料理教室



会合・会議



消防団の訓練

地域防災の拠点として



上3枚
過去の訓練の様子

さんがうらは三ヶ浦地域の指定緊急避難所となっています。
運動場はヘリポートの役割を果たし、自衛隊の大規模訓練の際には本格的な訓練を実施されました。

また、災害用の食材（保存食）や水、ブルーシート、毛布等を備蓄、宿泊施設・合宿可能な設備・野外体験の道具等も多数取りそろえているため、万一の場合の避難や長期滞在にも対応しています。

球磨村の復興まちづくり計画（平成29年）に、施設整備として備蓄倉庫建設、非常用電源、自家発電機能、などの計画が上がっており、平成32年度（令和2年度）より整備開始予定となっていました。令和2年7月豪雨災害により現在進行していません。

●令和2年7月4日豪雨災害発生後

被災直前の7月3日夕方5時より避難所開設。避難者受け入れ開始。

十分な装備と体験交流施設（自然学校）としての知識・技術があったため、ライフライン断絶後（ガスはプロパンガスのため断絶せず）も大きな混乱を招くことなく対応ができました。

地域住民からも多くの協力があり、地域の交流拠点施設としても機能することができ、指定緊急避難所運営（7月3日～9月12日）、支援物資の調達・管理・配布、住民のニーズ調査・生活支援・コミュニティ支援等を行いました。

また、ボランティアや様々な方にご支援いただき、三ヶ浦地域のカウンターパートとしても機能しました。これまでの活動でご縁をいただいた方、そしてそこから広まった支援の輪で、非常に困難な時期を乗り切ることができました。

※生活支援・買い物支援・コミュニティ支援に関しては現在も継続中

落橋と孤立、山間地の道路分断 ライフライン断絶 独居老人世帯・高齢者には生活を続ける術がない



相良橋流失。すぐ目の前には渡地区。ここが通れば人吉市まで10分なのに...



沖鶴橋流失。落ちるはずがないと誰もが思っていた橋でさえ、流されてしまった。



山間部の至る所で道路崩壊が。今回の豪雨は洪水被害ばかりではなく、山間部の地形や水流、川の流れさえ大きく変えた。



自衛隊・県警察・地元消防団が協力し、全体の把握とライフライン復旧へ向けて活動。



孤立状態の時には自衛隊ヘリで、物資輸送、医療施設へ搬送が行われた。

避難状況 (7/13 現在)

地区	世帯数	人数	避難所	状況	避難所	人数	状況	避難所	人数	状況	避難所	人数	状況
大久保	7	28	28	0	0	7	28	21	6(1)	28	0	0	0
相良	12	38	34	0	0	12	32	29	(1) (1)	34	0	0	0
相良口	11	17	17	0	0	11	22	17	5(2)	22	0	0	0
ウノナ	21	82	69	13(1)	0	18	58	29	初世 22	73(1)	+3	?	?
大無田	45	124	124	0	0	0	0	0	0	103	+17	?	?
千津	5	12	12	0	0	5	14	12	2	14	0	0	0
松谷	21	45	45	0	0	0	0	0	0	45	+2	?	?
毎床	42	144	137	(1)	0	0	0	0	0	144	+1	?	?
茂田	6	11	10	(1)	0	6	11	10	(1)	11	0	0	0
遠原	10	22	22	0	0	11	0	0	0	22	0	0	0
保口	4	15	13	(2)	0	9	15	12	(2)	15	0	0	0
中津	12	19	19	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0
黄葉(7/13)	9	19	17	(1)	0	0	0	0	0	17	0	0	0

三ヶ浦地域住民の安否確認。刻一刻と変わる状況の中、地区班長と連絡を取って状況調査。(自衛隊主導)

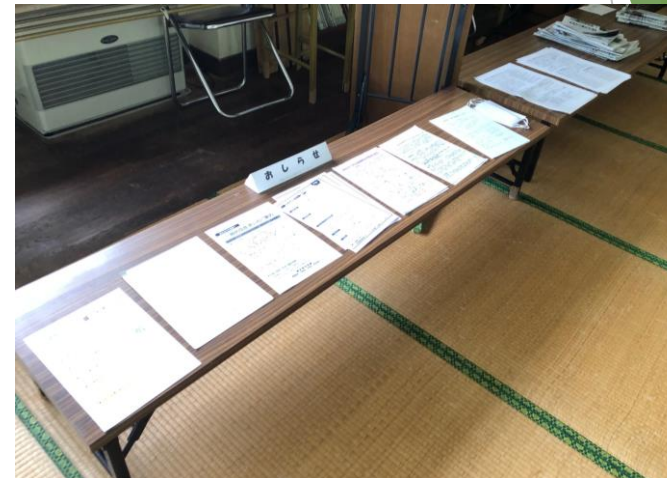
被災後、指定避難所として2か月間の運営



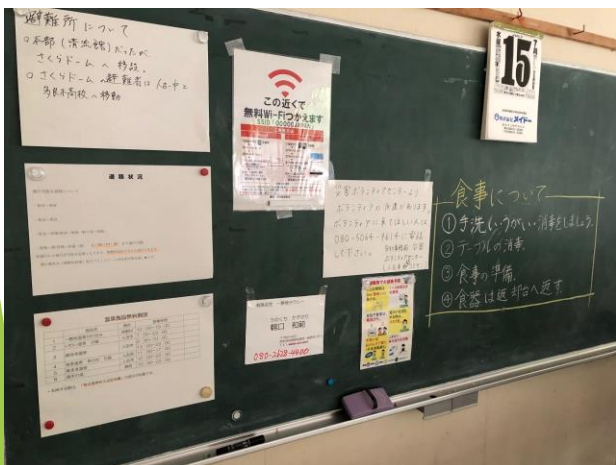
元図書室（1階避難所）の様子。
2回宿泊室も避難所へ。ライフライン復旧前は、衛生管理が課題だった。



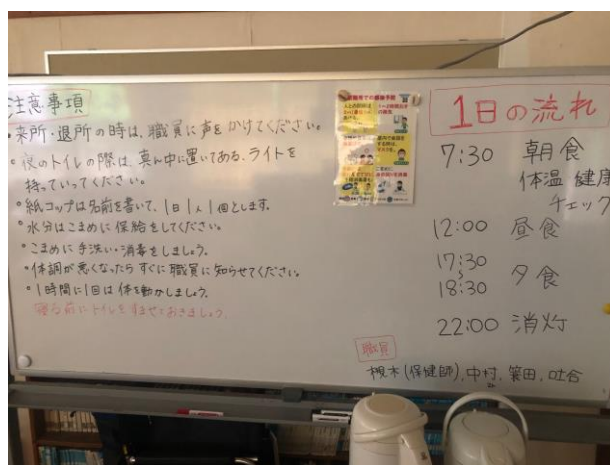
避難所の一角に食料品や飲料水置き場を設置。コロナ対策も一時は衛生用品が不足対応が難しかった。



球磨村からの広報やボランティアのお知らせ版置き場。



災害に係る情報を随時更新してお知らせ。電気復旧前は紙に手書きして対応。



避難所内で自然とできた決まり事などを掲載して掲示。



最初期は食堂が支援物資置き場に。（7月6日時点）のちに体育館へ。

